

令和元年度新宿区環境マネジメント活動結果について

1 運用状況

(1) 環境マネジメントの運用体制

260 課・施設（指定管理施設を含む）

(2) 研修の実施

①環境マネジメント推進員・担当員研修の実施（全4回）

令和元年5月13日～14日（受講者：370名）

②新規採用職員研修

令和元年5月28日（受講者：147名）

③環境監査員研修・環境法令研修（全2回）

令和元年6月18日～19日（同日開催）

（環境監査員研修受講者：31名うち新規監査員23名）

（環境法令研修受講者：89名）

(3) 環境監査（令和2年1月の環境基本計画推進本部会議で報告済）

令和元年10月7日～11月8日 監査施設数 85 課・施設

従事監査員数：60名

(4) 環境マネジメント通信の発行

庁内の省エネ・省資源活動を推進するため、年4回職員向けに発行

(5) 第三者評価の実施

運用開始から3年目にあたることから、システムの有効性の確認及び今後の改善・発展につなげていくため第三者評価を実施

(6) マニュアル等の改訂

第三者評価結果、監査結果等を踏まえ、環境マネジメントマニュアル等を改訂

2 令和元年度環境マネジメント活動報告書の概要

(1) 環境目標と達成状況について

①各課・各施設の実態にあった良好な取組と評価 別紙（1）のとおり

各課・各施設で目標を設定し、工夫しながら達成するなどの良好な取組が見られた。

②エネルギー使用量等の数値目標と評価 別紙（2）のとおり

数値目標を設定し、省エネ活動に取り組んでいた。目標が達成できない場合でも使用量の増加を最小限に抑える工夫を各課・各施設で行っていた。

(2) 環境法令（重点事項）の管理

環境監査の結果、フロン類使用機器について大型の空調機器は概ね適切に管理されていたが、一部の施設で冷水器等の簡易点検の漏れなどの指摘があった。

(3) エネルギー使用量等の実績について

区の全体目標として、エネルギー使用量等を前年度の実績値から 1%以上削減することを目標とし、省エネルギーの推進に取り組んでいる。

令和元年度のエネルギー使用量等の合計と達成状況

項目	元年度実績	元年度目標 (30年度実績1%減)	対目標比 (実績/目標)	達成状況
①電気	37,387,641 kWh	37,786,445 kWh 以下	98.9%	達成
②ガス	3,357,652 m ³	3,246,203 m ³ 以下	103.4%	未達成
③水	740,109 m ³	748,572 m ³ 以下	98.9%	達成
④ガソリン	59,165 ℓ	58,950 ℓ 以下	100.4%	未達成
⑤用紙	120,300,236 枚	85,325,574 枚 以下	141.0%	未達成
⑥ごみ	1,044,592 Kg	955,686 Kg 以下	109.3%	未達成

建物単位でのエネルギー使用量の前年度比較（全 135 建物単位）

① 電気

各課・各施設において様々な工夫を行いながら省エネ活動に取り組んだことにより、目標を上回る約 2%削減を達成した。

② ガス

ガス使用がある 121 建物中、本庁舎をはじめとする 70 建物については前年度より使用量を削減できた。

使用量が増加した施設では、稼働率の向上や体育館等の空調設備の新設が要因と考えられる。

③ 水

各課・各施設の節水の取組により、目標を上回る約 2%削減を達成した。

④ ガソリン

公共交通機関の積極的な利用やエコドライブ、効率的なルート運行などの取組により、前年度より使用量を削減できたが、目標にはわずかに届かなかった。

⑤ 用紙

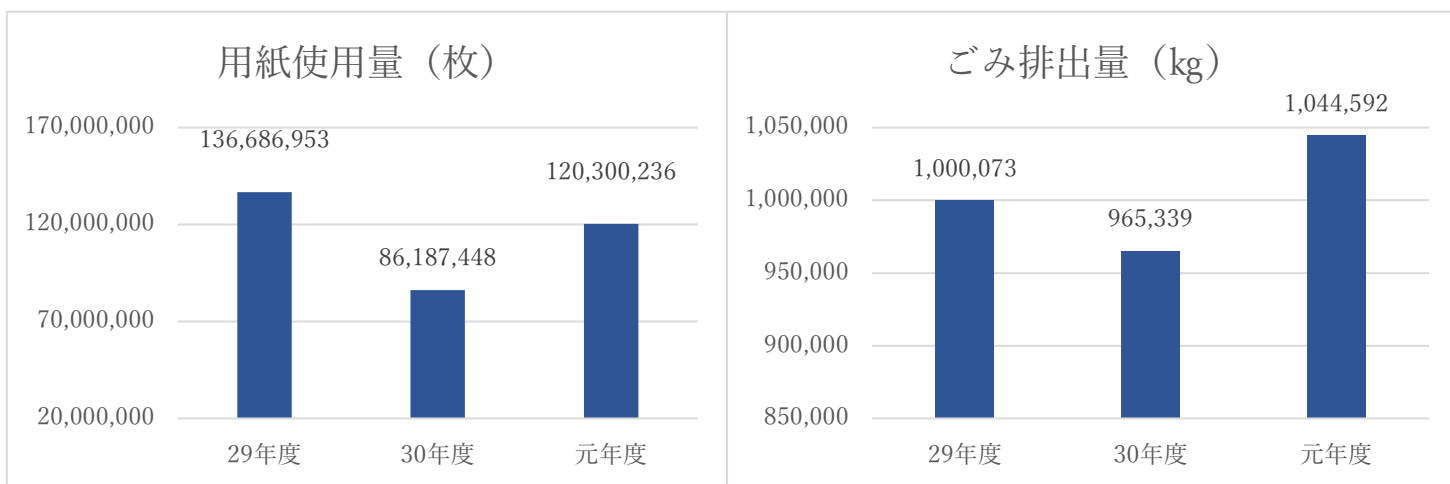
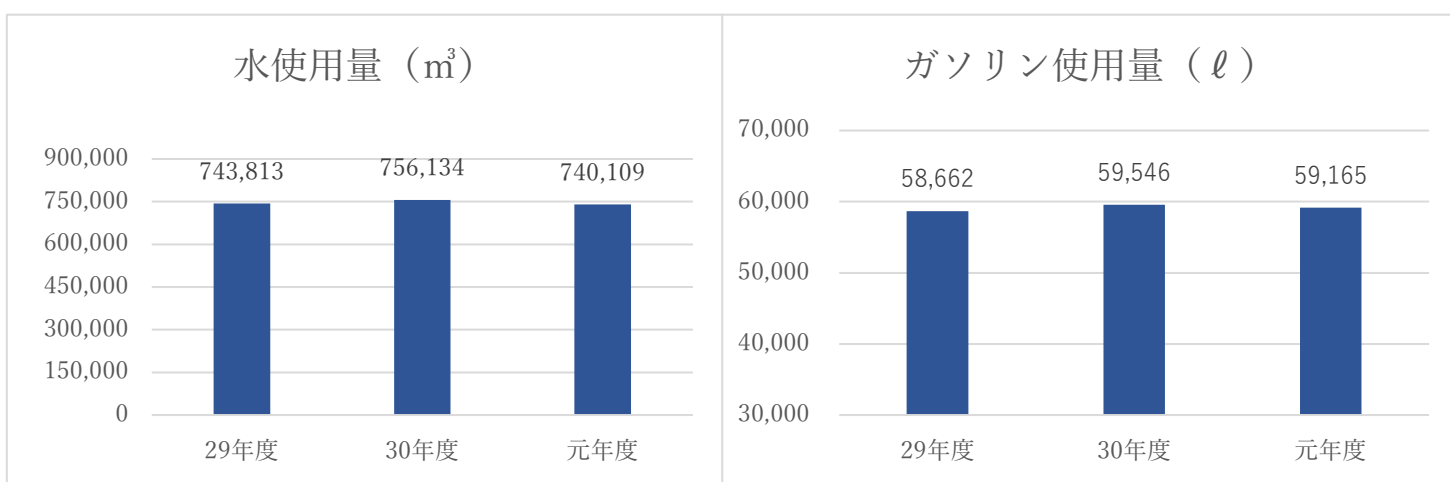
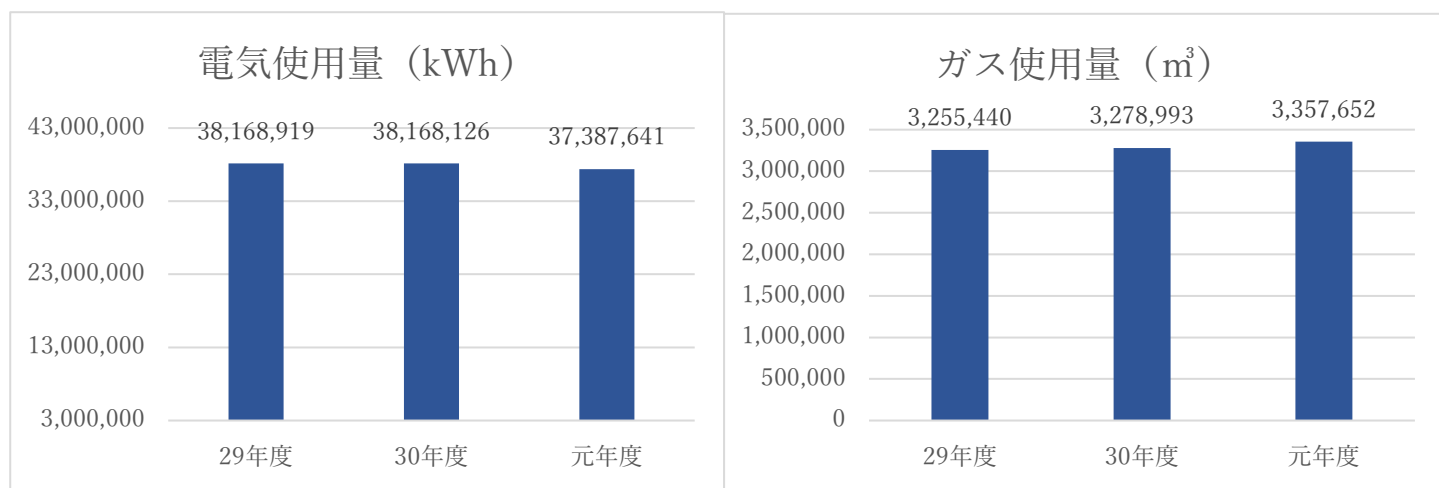
隔年発行の「くらしのガイド」の作成年度であったことや防災マップ・ハザードマップの作成及び各種計画等の作成により使用量が増加した。

⑥ ごみ

可燃ごみは 71 建物で増加しており、多くが保育園又は子ども園であった。令和元年 7 月より使用済みオムツの各園廃棄を開始したことによる増と考えられる。

不燃ごみは、一部施設の改修工事や備品整理等により増となり、ごみ全体で増加となった。

直近3年間のエネルギー使用量等の推移



※平成29・30年度は261課・施設が対象、令和元年度は260課・施設が対象

3 新宿区環境マネジメントの課題と対応

(1) エネルギー使用量等の抑制

新型コロナウイルス感染症への対応により、臨時休館等を行った施設もあるため、昨年度の使用量と一概に比較することは難しいが、電気使用量及び水使用量については、目標を達成することはできた。しかしながら、地域交流館、児童館及び学校などでは使用量の増加が見られている。

施設利用者の増加や、猛暑対策のための空調利用など、削減が難しい状況もあるが、直近3年間のガス使用量については増加傾向にある。

昨年度、新たな取組として、特にエネルギー使用量の多い本庁舎及び第一分庁舎において、ノー残業デーと組み合わせた省エネ対策を実施した。本庁舎では電気使用量で前年度比3.3%減、ガス使用量で前年度比9.2%減、第一分庁舎では、電気使用量で前年度比2.7%減、ガス使用量で前年度比4.4%減となっており、ノー残業デーと組み合わせた省エネ対策も一定の効果があつたと考えられる。

令和2年度は、この取組に第二分庁舎及び第二分庁舎分館も追加しており、さらなる省エネ行動を推進していく。

今後も、新宿区環境マネジメントを適切に運用するとともに、省エネルギーに向けたLED化の促進や、施設改修時に合わせた省エネルギー化のための設備更新の検討を行うなど、一層の省エネルギーを推進していく。

(2) 新宿区環境マネジメントの充実

第三者評価の結果を踏まえ、環境マネジメントマニュアル及び活動の手引き等の見直しを行っており、一層の活用を図っていく。

また、昨年度試行した「庁内における使い捨てプラスチック製品の使用削減取組方針」を、環境マネジメント方針に統合し、重点推進事項として位置付けており、引き続き削減に向けた取組を進めていく。

さらに、環境監査が3年で一巡し、今回から2回目となることから、前回監査の指摘事項を踏まえた、より良い環境監査ができるよう努めていく。

今後、適切に新宿区環境マネジメントを運用し、一層の充実を図っていく。

環境目標と達成状況について

(1) 各課・各施設の実態にあった良好な取組と評価

対象課・施設	目標	評価
戸籍住民課	<p>繁忙期以外の時期に、完全ノー残業デーを年5回実施する。</p> <p>残業の必要がある時は、火曜日の窓口延長時の残業を促すことにより、節電に取り組む。</p> <p>平成30年度実績：4回</p>	<p>7月から2月に完全ノー残業デーを設定して取り組み、7月、8月、12月に各月1回と2月に2回の計5回、完全ノー残業デーを達成することができた。</p>
西落合児童館	<p>イベント等で使用する容器を繰り返し利用可能な環境配慮型のものに変更する。従事者はペットボトルの持ち込みを控え、マイボトルを繰り返し使うようにする。利用者にも協力を仰ぐ。</p>	<p>年間を通してペットボトル容器を利用する会議・イベントはなかった。環境配慮の周知の現れとして利用者のマイボトルの持ち込みが増えている。</p>
介護保険課	<p>マイボトルを持参することで環境に対する意識を持ってもらい、ペットボトル等の使い捨てプラスチックの削減を目指し、職員の意識啓発を行う。</p> <p>会議等の飲料の提供時はペットボトル飲料をやめる。リユースの取り組みを検討するが、それまでは紙パック飲料とする。</p>	<p>職員にマイボトル持参を呼びかけ、ペットボトル等プラスチックの使用削減を図った。会議等における飲料提供は、やむを得ない場合を除き、紙パックまたは缶飲料とした。</p>
四谷保健センター	<p>本来不燃ごみであるはずのものが可燃ごみとして捨てられることを防いだり再生利用可能な紙類の分別をしたりできるよう、分別の仕方について掲示による周知を行う。</p>	<p>汚れていないプラスチックごみを新たにリサイクル業者に提供するようにしたこと、職員の昼食には再使用可能な容器での弁当を注文するようにしたこと、集会室利用者への持ち込みごみの削減の協力要請の成果により、可燃ごみが前年度比約48%削減となった。</p>
新宿リサイクル活動センター	<p>不要な場所の消灯の徹底やエアコン等の各種スイッチに省エネへの注意喚起のステッカーを貼るなどにより省エネへの意識向上を図る。</p>	<p>不要場所の消灯は前年度から継続して実施。スイッチ付近に注意喚起ステッカー等を貼付するとともに職員定例会でエネルギー使用実績を定期的に報告・注意喚起し意識の向上を図った。臨時職員にも朝礼でエアコンのこまめな温度調整を依頼した。会議室の利用減・気温影響の要因も大きいですが、意識向上は着実に定着してきている。</p>

<p>建築調整課</p>	<p>使い捨てプラスチック（ペットボトルなど）の削減などごみの排出量の削減について職員への啓発を行う。また、紙の廃棄時に選別を行うことで、リサイクル可能な紙の裏紙利用やメモ用紙として活用しごみの排出の削減に取り組む。</p>	<p>課内啓発を行い、ペットボトル利用者には再使用可能なタンブラー等を利用するよう個別に啓発した。 また、使用済み用紙から再利用可能な用紙を選別し優先して使用することで、ごみ排出量の削減に努めた。</p>
<p>落合第二中学校</p>	<p>生徒会を中心にペットボトルや古本回収を行っていく。制服リサイクルなどもPTAに協力してもらう。定期的に行うことで、環境・リサイクルへの意識を持ってもらう。</p>	<p>古本回収を「ぶっくデワクチン」のネーミングで生徒に呼び掛け、昨年よりも回収量を増やすことができた。ホームページなどにも活動を掲載しているので、地域・保護者にも学校での活動を知ってもらうことができ、意識啓発につながっている。</p>
<p>柏木小学校</p>	<p>校務支援ソフト「まなびのとびら」を活用し、ペーパーレス化をすすめ、不必要な用紙の使用量を削減する。</p>	<p>職員間では、日頃から紙ベースによる資料の削減に努めるために校務支援システムを有効活用し、データによる資料の公開を意識的に行った。結果、紙ベースによる会議資料を減らすことができた。</p>
<p>上落合児童館</p>	<p>職員は、グリーン購入における対応と今年度の区の重点取り組みを理解し、ペットボトルなどのワンウェイ製品の使用削減に努める。また、利用者への啓発活動も行う。</p>	<p>職員会議では、「環境マネジメント通信」などを資料として、区の重点取り組みや現場の課題について話し合った。とくにペットボトルについては、行事や会議で使用することをやめた。また、利用者への啓発活動として東京都水道キャラバンを実施し、トーキョースマイルボトルの呼びかけとポスターの掲示をした。</p>

(2) エネルギー使用量等の数値目標と評価

対象課・施設	目標	評価
新宿歴史博物館	<p>エネルギー(電気・ガス・水道)使用量の昨年度比 1%削減を目標に重点的な取組事項を掲げ、使用量の削減に取り組む。</p> <p>(30年度電気使用量 529,646kWh、ガス 24,278 m³、水道 1,929 m³)</p>	<p>令和元年度の電気使用量は 479,893kWh (昨年度比 90.6%)、ガス使用量は 15,326 m³ (昨年度比 63.1%) 水道使用量は 1,877 m³ (昨年度比 97.3%) とそれぞれ下回った。館の改修工事や新型コロナの影響を受け例年より実質 3 ヶ月開館日が少なかった影響もあるが、開館していた 6・7・8 月の電気・ガス・水の使用量がすべて前年度を下回っており、休館期間以外でも削減に努めることができた。また、LED の導入も実施し環境保全へ取り組んだ。</p>
本塩町児童館	<p>電気使用量の前年度比 1%を目標に児童館と連携し年度初め職員会議の際に前年度の使用状況を資料としての会議を行い、建物全体で使用量の削減に取り組む。(平成 30 年度電気使用量 76,380kwh)</p>	<p>平成 31 年実績 74,034kwh、前年比 96.9%(▲3.1%)を達成できた。達成要因としてはコロナ感染予防対策による利用自粛もあったが、全職員が館内見回り時における電源チェック、温度管理を活動目標として意識を高めてきたこともある。</p>
教育支援課	<p>平成 30 年度の再生紙購入枚数 518,500 枚の 1%削減を目指す。(目標：年間購入枚数 513,315 枚)</p> <p>①両面コピー・割り付け印刷の徹底 ②可能な限り、裏紙を使用する ③資料配布を減らし、電子回覧を励行する</p>	<p>①両面コピーを励行した。 ②可能な限り裏紙使用をした。 ③打ち合わせ等の資料について、配布は極力避け、回覧やスキャナ添付による周知を図った。</p> <p>以上の取組みにより、用紙使用量が削減され、目標を達成することができた。</p>
鶴巻幼稚園	<p>裏紙利用や使える部分の再利用、回覧やメールの転送、配布する文書の部数の適正化を図り、昨年度より 1%削減を目指す。</p>	<p>裏紙利用、回覧やメールの転送などに努め、使用する用紙を 1%以上削減することができた。更に、コピー機の青字印刷機能を活用し、用紙を再利用することも取り入れた。</p>
西戸山小学校	<p>日頃から節電や適切な空調設定を促し、各教室やトイレの省エネに関する掲示物などを充実させ、教員・児童の意識を高める。前年度よりも少しでも多く削減することを目指す。</p>	<p>前年度に比べ、約 7%減となった。蛍光灯から LED への転換や日頃からのエアコンの適正温度の設定などが要因だと考える。さらにできることを模索し、実践していく必要がある。</p>
新宿養護学校	<p>冷暖房における使用時間、設定温度の適正化を図る。消し忘れ対策として授業時間の終わり毎に「一斉 OFF」設定を導入する。また、生徒会活動として「スイッチ OFF」運動を展開しながら児童生徒、教員の省エネ意識の高揚を図っていく。</p>	<p>冷暖房の消し忘れ対策として授業時間の終わり毎に「一斉 OFF」設定を導入した。また、プール稼働時間・日の厳選化を徹底した結果、前年比 7.9%の削減をみることができた。熱量の大きいプールでの省エネ効果が大きかったと思われる。「一斉 OFF」は職員の意識向上のために続けていきたい。</p>

